



世界が自らの指針を失うとき

令和8年3月13日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

世界がその機軸を見失い、未来を漠然として眺めることは、その決意とともに、新たな世界の基軸を提案行動することなどは、世界がその未来という現実への新たな選択を求めることができるものです。

これらは人間が、その自己の共有性と本来の目的の共有など、新たな世界の実現を求めることは必ず可能なのです。

対立と分断が世界と未来であるならば、その相反する新しい未来を提案することは、人々が新たな選択を与えられることであると考えます。

これらは人類の理想は、今日の世界の混迷に対して、新たな選択を未来として実現することは可能であるはずで

これらは、歴史の永続でなく、それら誤りから人々が自らのけつちと選択において新たな世界を実現することは必ず可能なのです。

これらは人類の選択であり、2分化する世界において、人々は新たな未来という選択を有するものです。

歴史は戦争において自己を有するものであり、人類は自らの学びと選択においてその未来の実現を求めることは必ず可能なのです。

これらは過去と同じ未来という選択は今日の技術革新において不可能であることは理解されるべきであり、パワーゲームは人々を反故にして、自らの未来を模索するものです。

未来は必ずその選択なのです。それらにおいて現実に従属しそれらを放棄するのではなく、自らの声を世界に与えることは、新たな未来への参加であることは正しいのです。

これらの頂は政治家たちであり、その変化と選択へ、自らの行動を求められるものであり、未来の実現を自己に有することは真実であるものです。